
Cr-Mo

Hydrogen Attack in Cr-Mo Steels and Disbonding of Austenitic Stainless Weld Overlay

(Takuichi Imanaka)

(Jun-ichi Shimomura)

(Shozaburo Nakano)

(Koichi Yasuda)

:

Cr-Mo

Cr V

Si S

kinetics

Si

Synopsis :

The characteristics of a hydrogen attack on 2 1/4 Cr-1 Mo steels were studied. Resistance to the hydrogen attack increases drastically with a slight increment of chromium content of around 2.25 wt . Addition of vanadium up to 0.15 wt and lowering silicon content to a level less than 0.15 wt in 2 1/4 Cr-1 Mo steels improve dramatically the resistance to hydrogen attack. These improvements in the hydrogen attack can be interpreted tentatively in terms of variation in the chemistry and thermodynamical properties of carbi

今中 拓一*2 下村 順一*3 中野 昭三郎*4 安田 功一*5

Hydrogen Attack in Cr-Mo Steels and Disbonding of
Austenitic Stainless Weld Overlay

THE EFFECT OF HYDROGEN ON THE CORROSION BEHAVIOR OF Cr-Mo STEEL

0.16
%

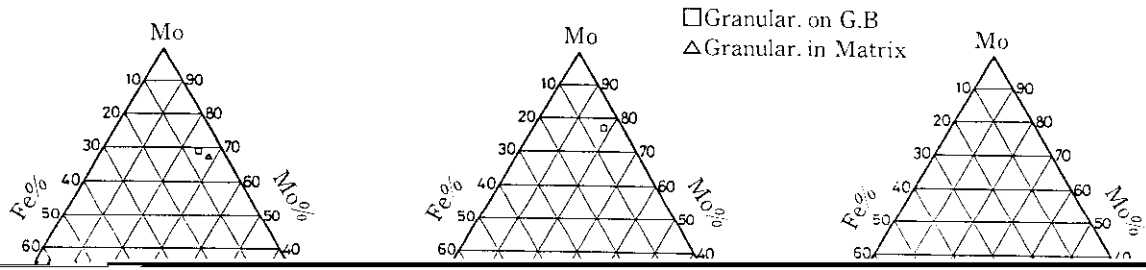
0.006
%

グ) によるじん性-脆性遷移温度の変化をP含有量に対してブ

図 10.10 Cr-Mo鋼の水素侵食とオーバーレイ剥離現象

が2.45 wt%以上になると著しい。尚、図中に示したSEM像は、矢印の試験片についての破面観察結果で、吸収エネルギー

の変化が著しく、鋼中のCr量が少なくなるとM₃C型炭化物の出現頻度が高くなることが明らかになった。このことから、



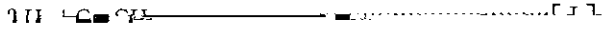
では $C = 1.1 \times 10^2 \text{h} \cdot \text{kg}^{-3} \cdot \text{cm}^{2/3}$ Si=0.30~0.60 wt% では $C =$ 200

は、溶接金属(オーステナイト相)と母相(フェライト相)の界面に、炭化物が析出していることが観察された。

では溶接金属に炭化物が析出しているにもかかわらず、ショットダウン時には容器壁から剥離割れの起点となる炭化物は観察されなかった。

壁の温度低下によって溶接金属(オーステナイト相)と母相(フェライト相)の界面に炭化物が析出しているにもかかわらず、ショットダウン時には容器壁から剥離割れの起点となる炭化物は観察されなかった。

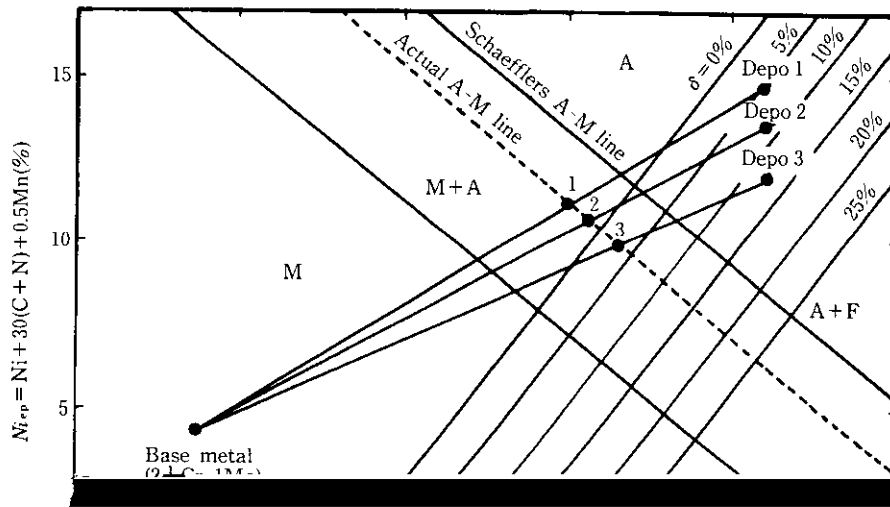
になる。高温高压水素雰囲気下での鋼材の劣化は、基本的には [I]の反応により起こる。



エネルギーである。 ΔG_{Cr_2C} は

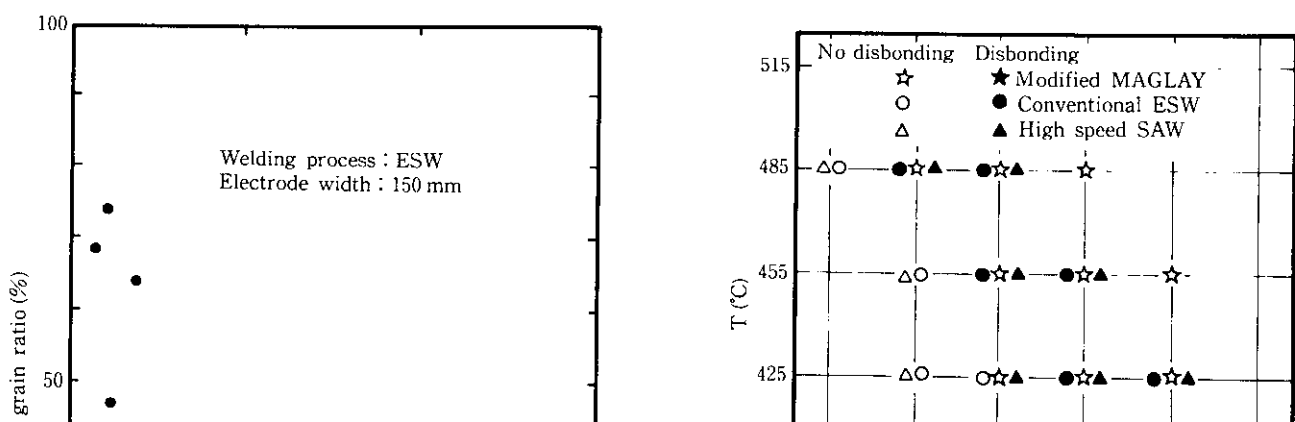
$\Delta G_{Fe_3C} = 6380 - 5.92 T \text{ cal/mol} \dots\dots\dots(12)$

で与えられている。理論的に導出された炭化物 Cr_2C に関して



$$Cr_{eq} = Cr + Mo + 1.5Si + 0.5Nb (\%)$$

Fig. 9 Transition of microstructure from base metal to weld metal in the Delong's and Schaeffler's diagram



は高速 SAW 法 (図中記号○印) および通常 ESW 法 (図中記号△印) によるオーバーレイ溶接金属の特性を併記してある。図に

く従来の 2 ¼ Cr-1 Mo 鋼の特性を向上するための研究を企画しており、その流れの中で先述した炭化物形成元素の利用等が

において白抜き記号は剥離割れが起こらないことを、黒印は剥離割れが観察されたことを意味している。この結果は、Si およ

検討されている。しかしながら一般的に、合金元素の添加による高強度化は、じん性や SR 割れ感受性を損う傾向にあり、これ

れた耐剥離割れ性を示している。

5 結 言

しなければならないことは言うまでもない。

現在のところ、非常に長い使用時間の間に生じる鋼材の材質